

NPO 法人ふわり 社会福祉法人むそう
喫茶なちゅ(愛知県半田市板山町 1 丁目 28-1)見学

2 月 22 日(木)9:00 あいあい出発 14:00 帰着

参加者: 神田 坂地 藪原 浜野 小菅 NPO 法人グリーンアップル社
小規模作業所“夢想工房”佐野 保健福祉部 田中室長 倉田



幼稚園を改築した喫茶なちゅ

西野公園内研修センター元レストラン跡の有効利用のため、障害者団体と保健福祉部高齢障害室で勉強会が立ち上がり、まず、NPO 法人ふわりの中の喫茶店“なちゅ”の見学に行くことになりました。

当日は、理事長の戸枝氏が不在で、代わって加藤 恵(社会福祉法人むそう理事 障害者支援施設アーツスクウェア施設長 NPO 法人ふわり副代表)からふわりの成り立ちからお話いただきました。立ち上げた戸枝氏は、半田市内の社会福祉協議会の施設で指導員として働いていましたが、日ごろ障

害者に関わる中で、もう少し手を貸してあげることができそうなことがあるのではと、常々考えていたそうです。ただ、組織の中にいるとできないことが多く、一念発起し施設を辞め、1 年間経営と税の勉強をし、NPO を 3 箇所勉強のために回ったそうです。目標は、男の人が一人食べていけるように。その間はもちろん無給で。その後、何かからはじめようかというとき、働く場はそこそこあるが、生活の場を支援するところがない(レスパイト支援)がないことに目をつけ、まずそこから始めたそうです。

NPO 法人を始めて取ったとき、公的認知を受け、財政面・社会的認知度が上がった。しかし、その後社会福祉法人を取ったのは、生活支援を始めるとその支援があることを前提に生活を組み立てる方も出てくるため、より安定を求めて取得した。が、その分動きが鈍くなったので、NPO の部分も残したそうです。今では、啓発活動、新しいことをするのは NPO と区分けしているそうです。

喫茶店ができてからは、障害者の方と周りを歩き、どんなメニューがほしいか、聞いて回り、地域の活動にも積極的に参加していき、自治体組織にも入れてもらい、地域の掃除などにも障害者と一緒に参加をしたそうです。また、喫茶店のメニューは 1 デイシェフを取り入れ、毎回地域の方が得意料理の腕を振るわれているそうです。また、障害者とともに働いている若い方たちは、不登校の子だったりします。この子達は、障害のある人たちと働くことにより、徐々に自信をつけていくのだそうです。

ふわりの説明の中に、行政の理解や生活支援に目を向けている施設がないという地域こそ、自分達でサービスを用意しないと、サービスを手に出来ない恐れがある。障害福祉の現状から考え



おいしかったランチ

ると、老人福祉よりさらに、市民主体の居宅支援事業者が、まさに、草の根のようにネットワークを張り巡らせる必要があるように思う。必要な支援の仕組みを市民自ら社会に提案する。そういう実践でありたいと思っている。まさしくこれだ!と思いました。働く場も必要ですが、これも含めた地域生活支援システム。亀山にもできないかなあ。